

— 部門別の動き —

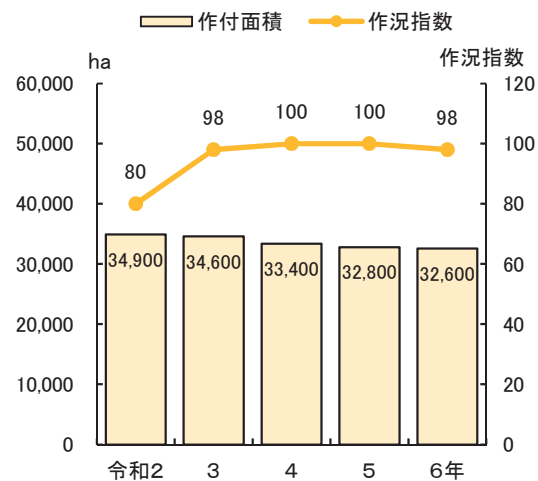
1 農業

(1) 水田農業

〇米

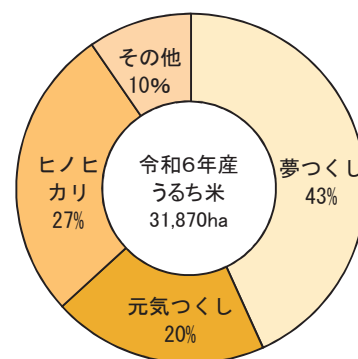
(作況指数は98の「やや不良」)

- ・作付面積は、前年に比べ200ha減の32,600ha。生産量は5,200t減の152,200t。10a当たりの収量は467kg、作況指数は98の「やや不良」。
- ・これは、出穂期以降の高温により、登熟が「やや不良」となり、白未熟粒等の発生や粒肥大の抑制が見られたことが主な要因。
- ・うるち米全体に占める県育成品種の割合は、前年並みで「夢つくし」が43%、「元気つくし」が20%。



水稻の作付面積・作況指数

資料：農林水産省「作物統計」



うるち米の品種別作付割合

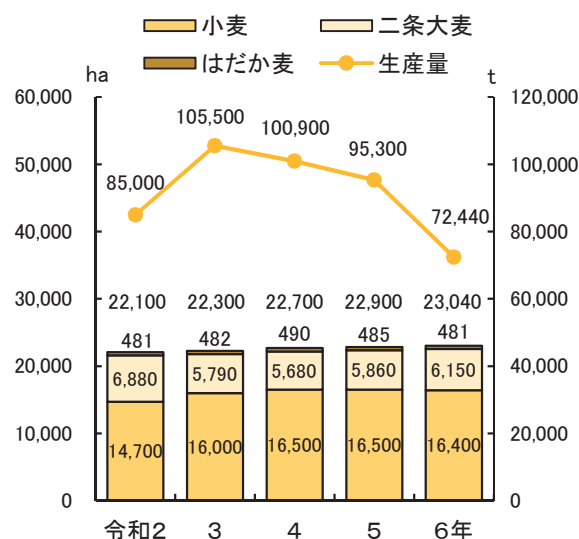
資料：水田農業振興課調べ

〇麦

(麦の作付面積は前年並み、生産量は22,860t減)

- ・作付面積は、前年に比べ140ha増の23,040ha。生産量は平年※に比べ20%減の72,440t。
- ・これは、2月以降の高温多雨傾向による湿害や病害の発生により子実が充実不足となったことが主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ19%減の52,800t、二条大麦は22%減の18,400t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの1,880ha。生産量は平年に比べ30%減の5,127t。

※平年値：平成29年産～令和5年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



麦類の作付面積・生産量

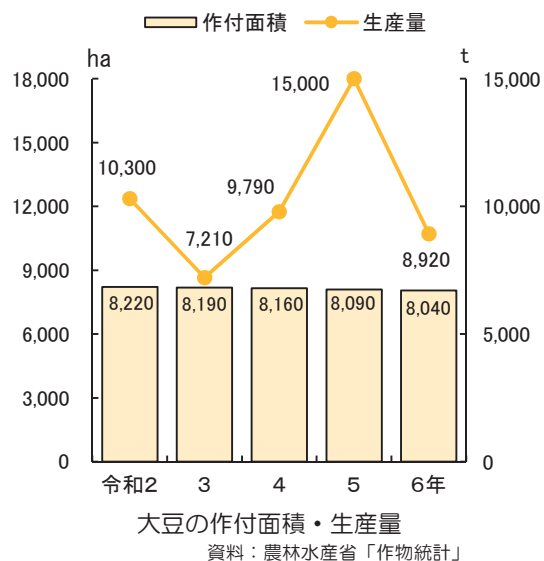
資料：農林水産省「作物統計」

○大豆

(大豆の作付面積は前年並み、生産量は6,080t減)

- ・作付面積は、ほぼ前年並みの8,040ha、うち令和4年から本格栽培を開始した大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」の作付面積は6,536ha。
- ・生産量は、平年※に比べ2,144t減の8,920t。
- ・10a当たりの収量は、平年比83%の111kg。
- ・これは、播種後の乾燥により初期生育が抑制されたこと、8月末の台風と開花期以降の乾燥により
莢数^{さやすう}が確保できなかったことが主な要因。

※平年値：平成29年産～令和5年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。

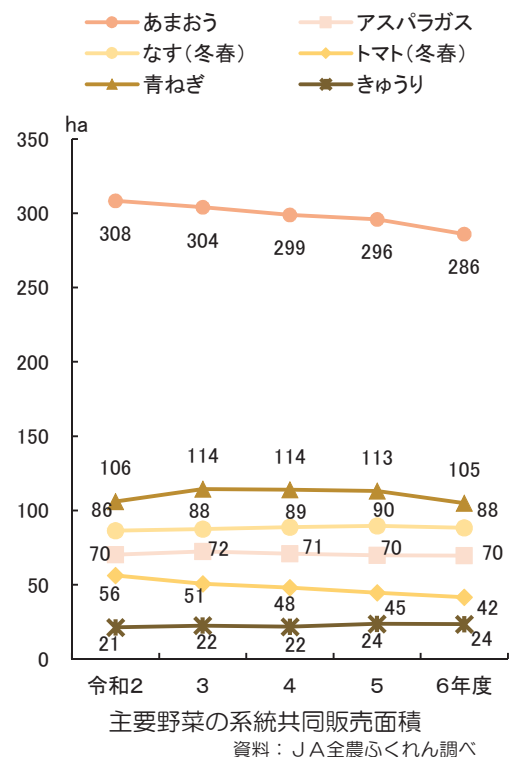


(2) 園芸・特産

○野菜

(「あまおう」の販売単価は21年連続で日本一)

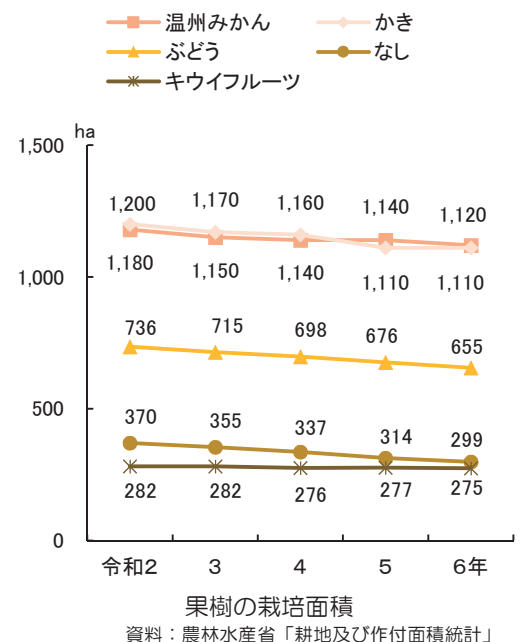
- いちご「あまおう」の作付面積は、前年度産に比べ10ha減の286ha。定植前後の高温の影響により年内出荷が少なかったものの、収穫期間を通して日照時間が確保されたことから、販売数量は、前年度産に比べ2%増の9,078t。販売単価は1,659円/kgとなり、21年連続日本一。販売金額は150億円。
- なすの作付面積は、前年度産に比べ2ha減の88ha。定植時期の高温の影響による減少があった一方、日照時間が確保されたことから、生育後期は収穫量が増加し、販売数量は、前年度産に比べ3%増の11,786t。
- アスパラガスの作付面積は、前年産に比べ0.3ha減の69.6ha。1戸当たりの作付面積は19.5aと、5年前の令和元年産と比べて0.2a増。
- 露地野菜の令和5年度産作付面積は、ほうれんそうやブロッコリー、レタスの作付が減少したことにより、前年度産から85ha減の3,109ha。



○果樹

(「秋王」の生産量が182tに拡大)

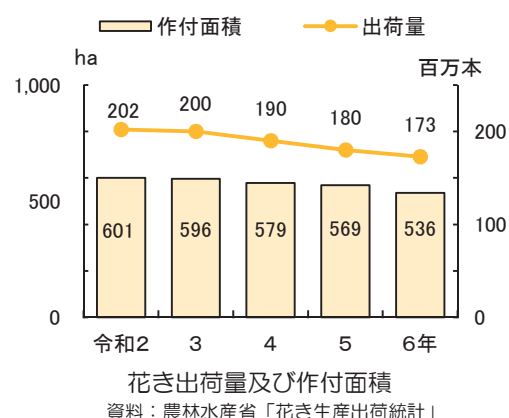
- 温州みかんの栽培面積は、前年産に比べ20ha減の1,120ha。県内で育成された「早味かん」や「北原早生」の栽培面積は、前年比5ha増の187ha。生産量は、夏期の高温による日焼け果や、裂果が発生し、前年比17%減の2,208t。
- かきの栽培面積は、前年産と同じ1,110ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は前年産と同じく41ha。成園化が進展したことから、生産量は、前年比11t増の182t。
- キウイフルーツの栽培面積は、前年産に比べ2ha減の275ha。県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年産と同等の22ha。生産量は、かいよう病の発生等による面積微減や日焼け果、貯蔵中の軟果の発生により前年比17%減の238t。



○花き・花木

(花きの作付面積、出荷量は前年並み)

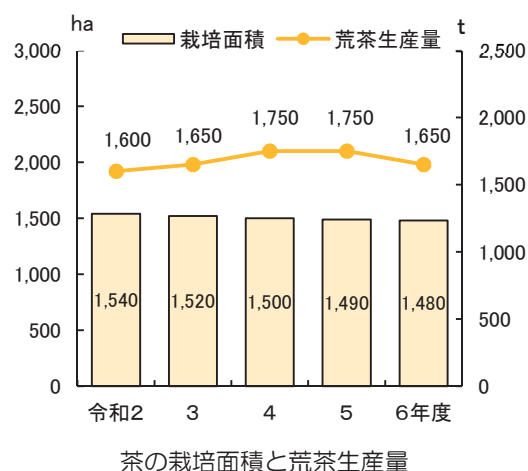
- ・花きの作付面積は、536haで前年よりやや減。作付面積全体の3割を占めるキクは前年に比べ16ha減の176ha。
- ・花きの出荷量は、前年に比べ4%減の173百万本。



○特産（茶）

(全国茶品評会「玉露の部」で八女市が24年連続産地賞を受賞)

- ・茶の栽培面積は前年度並みの1,480ha。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年度に比べ1.4ha減の10.3ha。
- ・「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種の栽培面積は、前年度に比べ17ha増の215ha。
- ・荒茶の生産量は、前年度に比べ100t減の1,650t。
- ・一番茶の荒茶価格は、普通煎茶が前年度に比べ6%低下し3,014円/kg、玉露は前年度とほぼ変わらず、5,531円/kg。
- ・八女茶は、令和6年度の全国茶品評会において、八女市が「玉露の部」で24年連続となる産地賞※を受賞。



資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。

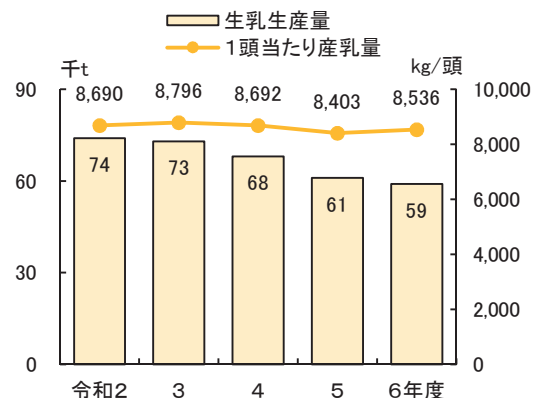
(3) 畜産

○乳用牛

(生乳生産量は前年比 1,391t 減)

- ・乳用牛飼養頭数は、飼養戸数の減少により前年度に比べ600頭減の10,100頭。1戸当たりの飼養頭数は、前年並みの65.6頭。
- ・生乳生産量は、前年度に比べ1,391t減の59,152t。
- ・令和5年度の高能力牛※の飼養頭数は、飼料価格高騰の影響により、前年度に比べ93頭減の455頭。搾乳牛全体に占める割合は11.1%。
- ・経産牛1頭当たりの産乳量は、前年度に比べ133kg増の8,536kg。

※高能力牛：年間産乳量が12,000kg以上の乳牛のこと。

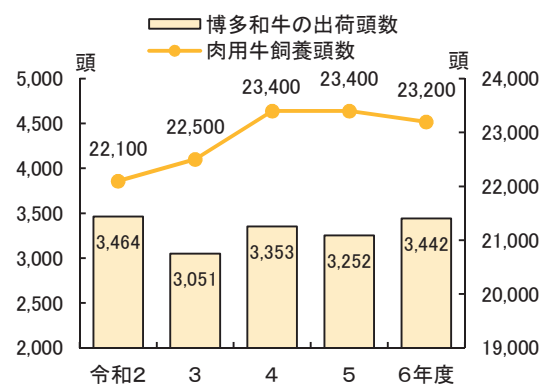


生乳生産量、経産牛1頭あたりの産乳量
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」等

○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は190頭増の3,442頭)

- ・肉用牛飼養戸数、飼養頭数は、前年度からのほぼ横ばいの162戸、23,200頭。1戸当たりの平均飼養頭数は143.2頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年度に比べ190頭増の3,442頭。
- ・年平均枝肉価格は、物価高騰に伴う消費者の節約志向により、前年に比べ和牛は1.1%低下。和牛に比べ割安感のある交雑種は7.5%、乳用種は22.4%上昇。

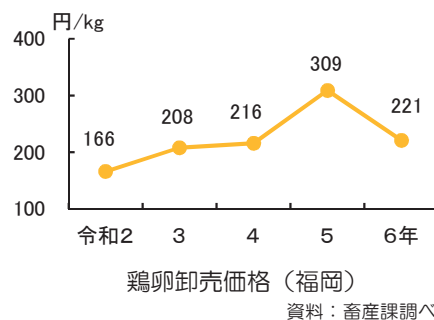
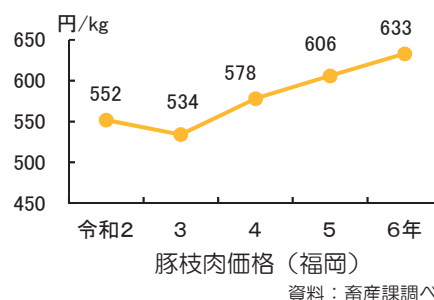


肉用牛の飼養頭数と博多和牛の出荷頭数
資料：畜産課調べ

○養鶏・養豚

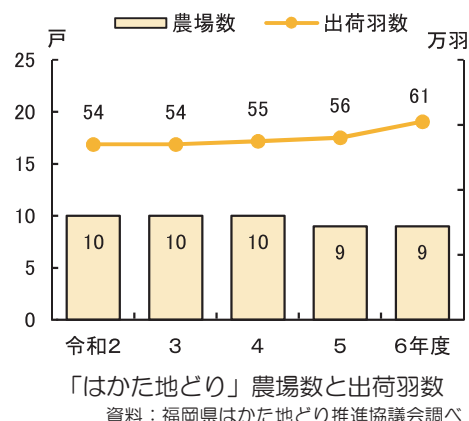
(豚の飼養頭数は79,800頭、鶏卵価格は前年比28%下落)

- ・豚の飼養戸数、飼養頭数は、前年度からの横ばいの39戸、79,800頭。豚肉価格は、前年に比べ4.5%上昇の633円/kg。
- ・鶏卵生産量は、飼養戸数の減少により、前年度に比べ3,395t減の32,091t。
- ・鶏卵価格は、令和4年度に発生した鳥インフルエンザの影響から全国的に生産量が回復し、前年に比べ28%下落の221円/kg。



(「はかた地どり」の出荷羽数は前年度比9%増加)

- ・肉用鶏飼養羽数は、前年度並みの145万羽。
- ・「はかた地どり」の令和6年度の農場数は変わらず、出荷羽数は、食鳥処理場の効率化により処理羽数が増加し、前年度に比べ9%増の61万羽。



○家畜衛生

(関係機関と連携し、家畜防疫体制を強化)

- ・令和6年9月、筑後市において、大規模農場での発生を想定した高病原性鳥インフルエンザの防疫演習を実施。
- ・6年10月、アフリカ豚熱に感染した野生イノシシの確認に備えた演習を実施。山林での防疫作業を猟友会等の関係機関と現地で確認するとともに、発生予防に関し注意喚起を実施。



山林での野生イノシシの適切な処理方法の検討

(4) 福岡県農業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数	戸		41,351	1,747,079 (1,709,485)	2.4	19	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち販売農家	戸		27,187	1,027,892	2.6	17	
自給的農家	戸		14,164	719,187	2.0	20	
農業経営体数	経営体		28,375	1,075,705 (1,040,792)	2.6	17	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち個人経営	経営体		27,239	1,037,342	2.6	17	
団体経営	経営体		1,136	38,363	3.0	9	
基幹的農業従事者数	人		38,077	1,363,038	2.8	14	2020年農林業センサス (個人経営体)
うち女性の割合	%		40.3	39.7	—	—	
65歳以上の割合	%		66.2	69.6	—	—	
耕地面積	ha		78,000	4,292,000 (3,134,000)	1.8	15	令和6年耕地面積調査 注：() は都府県
うち水田面積	ha		63,300	2,319,000 (2,099,000)	2.7	14	
畑面積	ha		14,700	1,952,000	0.8	26	
水田率	%		81.2	54.3 (67.0)	—	12	
1戸当たり平均耕地面積	a		188.6	245.7 (183.3)	—	—	注：1戸当たり平均耕地面積は耕地面積／農家戸数で算出
農業産出額	億円		2,096	94,987	2.2	17	令和5年生産農業所得統計
うち米	億円		338	15,193	2.2	15	
麦類	億円		43	678	6.3	3	注：全国は都道府県の合計値
豆類	億円		18	572	3.1	5	
野菜	億円		734	23,243	3.2	10	
果実	億円		267	9,590	2.8	11	
花き	億円		188	3,522	5.3	3	
その他作物	億円		60	585	10.3	1	
工芸農作物	億円		25	1,467	1.7	11	
畜産	億円		402	37,248	1.1	26	
乳用牛飼養頭数	頭		10,100	1,313,000	0.8	20	令和6年畜産統計調査
肉用牛飼養頭数	頭		23,200	2,672,000	0.9	25	注：採卵鶏は成鶏めす羽数
豚飼養頭数	頭		79,800	8,798,000	0.9	25	
採卵鶏飼養羽数	千羽		2,874	170,776	1.7	22	
ブロイラー飼養羽数	千羽		1,168	144,859	0.8	21	

(5) 福岡県農業の全国的地位

項目		区分	単位	全国順位 全国計	主産県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
					1	2	3	4	5	面積	収穫量	
麦類	小麦	小	t	2	北海道	福岡	佐賀	愛知	群馬			231,800
	二条大麦	二条大	t	3	栃木	佐賀	福岡	岡山	北海道	7%	5%	16,400
	はだか麦	はだか	t	4	愛媛	香川	大分	福岡	岡山	15%	15%	40,100
野菜			t	119,100	31,300	28,800	18,400	7,070	6,750			6,150
			t	12,400	4,030	1,890	1,570	1,240	763	9%	10%	5,430
	いちご	い	t	2	栃木	福岡	熊本	愛知	静岡			4,780
			t	161,800	24,600	16,000	11,700	11,100	10,600	9%	10%	421
	みずな	み	t	2	茨城	福岡	京都	滋賀	兵庫			2,220
			t	36,100	17,300	3,430	2,500	1,450	1,420	10%	10%	221
	冬春なす	冬	t	3	高知	熊本	福岡	愛知	群馬			1,030
			t	114,900	39,300	26,500	14,200	7,140	6,450	10%	12%	103
果樹	セルリー	セ	t	3	長野	静岡	福岡	愛知	千葉			534
			t	28,700	12,000	4,990	3,630	2,750	901	9%	13%	47
	こまつな	こ	t	3	茨城	埼玉	福岡	東京	神奈川			7,440
			t	120,900	28,500	13,000	11,400	8,060	6,700	9%	9%	653
	しゅんぎく	し	t	2	大阪	福岡	千葉	茨城	群馬			1,680
			t	24,600	3,180	2,350	2,320	2,090	1,910	10%	8%	175
	冬春トマト	冬	t	4	熊本	愛知	栃木	福岡	千葉			3,680
果樹			t	377,800	112,500	40,600	26,300	16,100	15,700	3%	4%	110
	キウイフルーツ	キ	t	2	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	群馬			1,840
			t	22,100	4,660	3,850	3,290	1,190	893	14%	17%	255
花き	かき	か	t	3	和歌山	奈良	福岡	岐阜	愛知			17,500
			t	185,200	37,900	26,600	15,100	12,100	10,100	6%	8%	1,070
	いちじく	い	t	5	和歌山	愛知	大阪	兵庫	福岡			812
花き			t	9,891	1,768	1,615	1,170	1,161	855	8%	9%	68
	ガーベラ(切花)	ガ	千本	2	静岡	福岡	和歌山	愛知	千葉			70
			千本	116,100	45,800	18,000	10,100	7,630	6,590	16%	16%	11
	きく	き	千本	3	愛知	沖縄	福岡	鹿児島	長崎			3,821
			千本	1,111,000	399,000	177,300	62,300	54,400	47,100	5%	6%	176
	トルコギキョウ	ト	千本	3	長野	熊本	福岡	静岡	山形			380
その他作物 (庭園樹苗木等)			千本	78,300	11,200	9,510	7,500	3,610	3,050	9%	10%	34
	洋ラン類(鉢物)	洋	千鉢	4	愛知	熊本	千葉	福岡	山梨			156
			千鉢	10,900	2,520	1,160	984	857	676	9%	8%	14
特産	ばら	ば	千本	4	愛知	静岡	山形	福岡	群馬			254
			千本	171,300	29,900	15,800	12,600	10,900	9,660	6%	6%	15
	茶	茶	億円	1	福岡	三重	愛知	千葉	鹿児島			—
特産			億円	129	43	29	11	7	6	—	33%	—
	茶	茶	億円	5	鹿児島	静岡	三重	京都	福岡			36,000
			億円	471	154	132	37	36	24	4%	3%	1,490
特産	い草	い	t	3	熊本	沖縄	福岡	高知	佐賀			393
			t	5,935	5,822	33	31	29	10	1%	1%	3

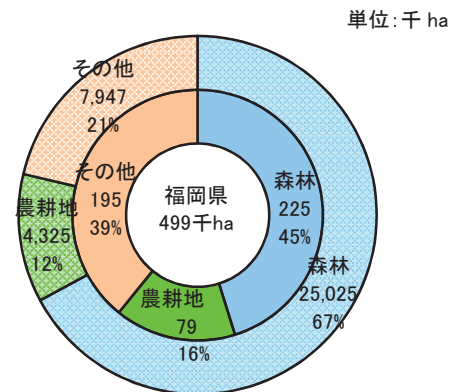
注：麦類：6年産作付面積（子実用）・収穫量、野菜：5年産作付面積・収穫量、
果樹：5年産結果樹面積（いちじくは4年産栽培面積）・収穫量、花き：5年産作付（収穫）面積・出荷量、
庭園樹苗木等：4年産出額、茶：5年産出額、6年産作付面積・生葉収穫量（主産県）、
い草：5年産収穫量・作付面積 ※公益財団法人日本特産農産物協会「地域特産作物（工芸作物、薬用作物及び和紙原料等）に関する資料」

2 林業

(1) 森林・林業

(森林率は45%、全国より22ポイント低い)

- ・本県の森林面積は225千haで、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は45%。
- ・これは全国の森林率67%より22ポイント低い。



外円(全国) 37,297千ha

内円(福岡県) 499千ha

国土・県土に占める森林の面積

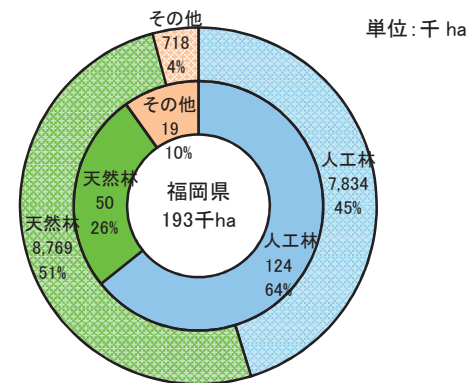
資料：福岡県：地域森林計画書（令和7年4月1日現在）

全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」等

(人工林率は64%、全国2位)

- ・本県の民有林における人工林面積は124千haで、民有林に占める人工林の面積割合を示す人工林率は64%。これは全国の45%より19ポイント高く、全国2位。
- ・人工林と天然林を合わせた材積※は62,231千m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



外円(全国の森林計画対象民有林) 17,321千ha

内円(福岡県の森林計画対象民有林) 193千ha

人工林・天然林別の森林面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和7年4月1日現在）

全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

人工林・天然林別の材積

単位:千m³

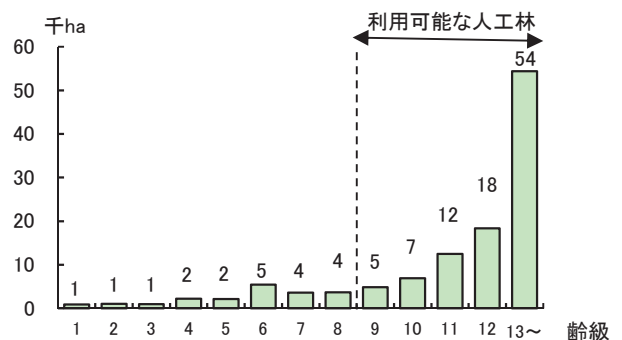
	人工林	天然林	計
全国	2,990,008	1,265,499	4,255,846
福岡県	58,250	3,981	62,231

資料：福岡県：地域森林計画書（令和7年4月1日現在）

全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

(スギ・ヒノキの資源が充実)

- ・本県の人工林124千haのうち、スギ・ヒノキ林は117千ha。
- ・このうち本格的に利用可能な41年生以上の面積は97千ha。



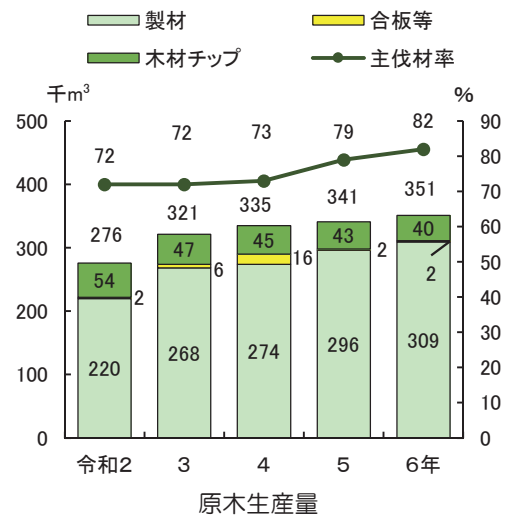
年齢別のスギ・ヒノキ人工林面積

注：年齢の単位は5年

資料：地域森林計画書（令和7年4月1日現在）

（原木生産量は3%増の351千 m^3 ）

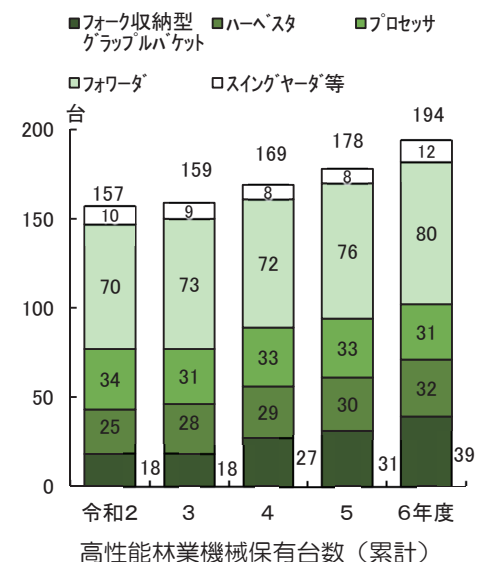
- ・令和6年の原木生産量は、主伐経費の助成や高性能林業機械の導入支援に加え、円安などの影響を受け、国産材の需要が高まったことから、前年に比べ3%増の351千 m^3 。
- ・原木生産に占める主伐材の割合は前年に比べ3%増の82%。
- ・原木の用途別では、製材用が309千 m^3 、合板等用が2千 m^3 、木材チップ用が40千 m^3 。



資料：林業振興課調べ

（高性能林業機械の保有台数は194台）

- ・令和6年度の高性能林業機械の保有台数は、前年度から16台増の194台。
- ・これは、原木生産を効率的に行うため、立木の伐採・集積や作業道の開設に使用できるフォーク収納型グラップルバケットなどの導入が進んだことによるもの。



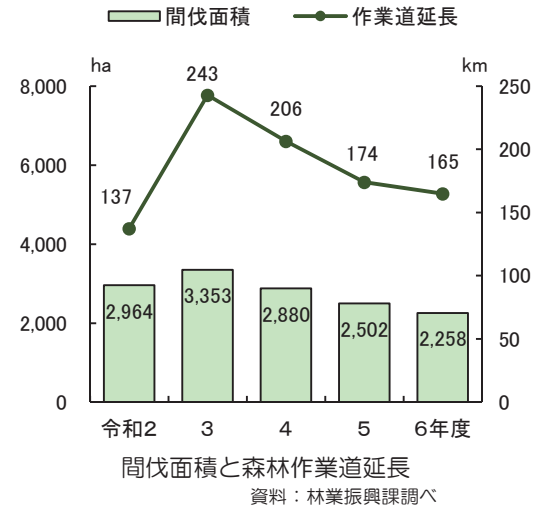
資料：林業振興課調べ



フォーク収納型グラップルバケット

（間伐面積は2,258ha）

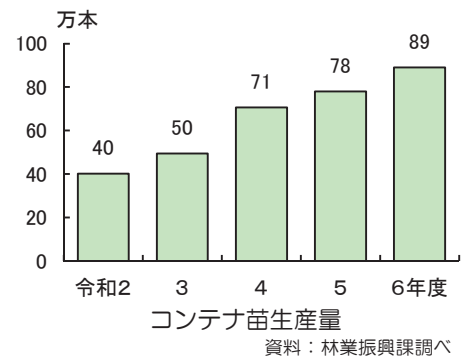
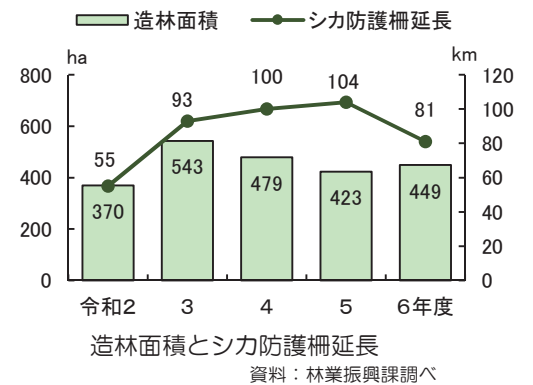
- 令和6年度の間伐面積は、前年度に比べ244ha減の2,258ha、間伐等と一体的に行う森林作業道の整備延長は、前年度に比べ9km減の165km。



（造林面積は449ha）

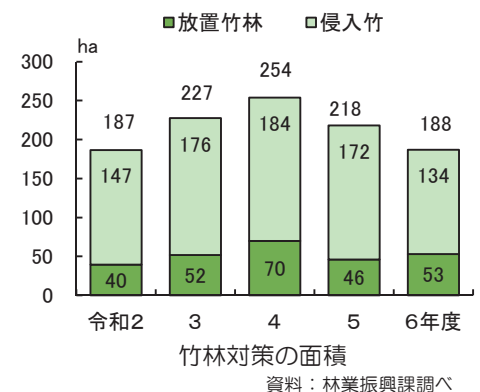
- 令和6年度の造林面積は、前年度に比べ26ha増の449ha。
- シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵を併せて設置し、6年度の設置延長は81km。
- 年間を通して植栽可能なコンテナ苗※の生産量は、前年度に比べ11万本多い89万本まで増加。

※コンテナ苗：根鉢があるため、これまでの裸苗よりも活着率が高いことから、年間を通して植栽することが可能な苗。



（竹林対策の面積は188ha）

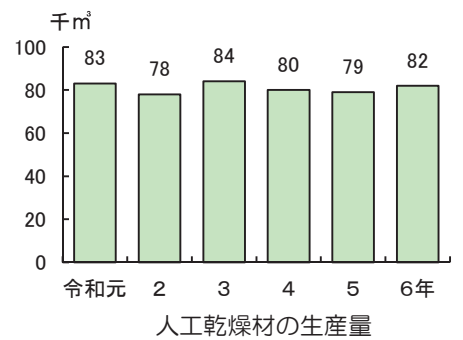
- 令和6年度の放置された竹林の伐採とスギや広葉樹への植替えの面積は、前年度に比べ7ha増の53ha、人工林への侵入竹の伐採面積は、前年度に比べ38ha減の134ha。



(2) 木材産業

(人工乾燥材生産量は前年並み)

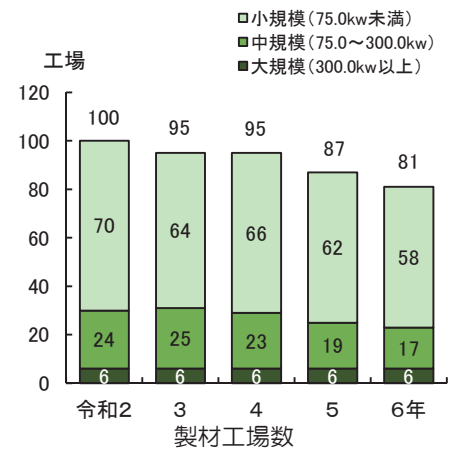
- ・住宅メーカーや工務店が求める曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和6年の生産量は、前年並みの8万2千 m^3 。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は64%。



資料：林業振興課調べ

(製材工場数は81工場)

- ・令和6年の製材工場数は、前年から6工場減少し、81工場。
- ・製材品の製造能力別にみると、小規模が4工場、中規模工場が2工場減少し、大規模工場は横ばい。

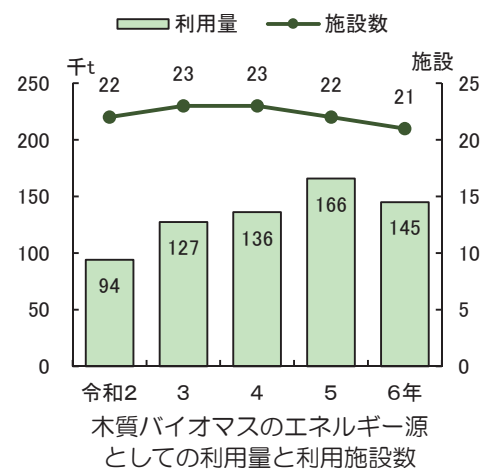


資料：農林水産省「木材統計」

(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量は平均並み)

- ・木質バイオマス※をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年から1減の21施設。
- ・令和6年の利用量は、前年に比べ13%減の14万5千t。
- ・これは、昨年伸びていた筑前町の木質バイオマス発電所における利用量が平年並みに戻ったことによるもの。

※木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。



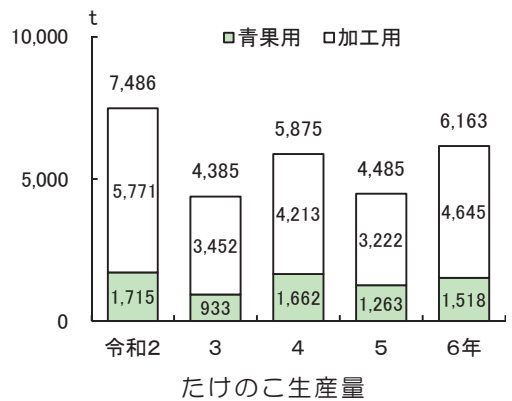
資料：林業振興課調べ

(3) 特用林産物等

(たけのこ生産量は37%増の6,163t)

- ・令和6年のたけのこの生産量は、前年に比べ37%増の6,163t。
- ・これは、主産地の八女地域が表年※であったため、生産量が増加したものの。

※表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。

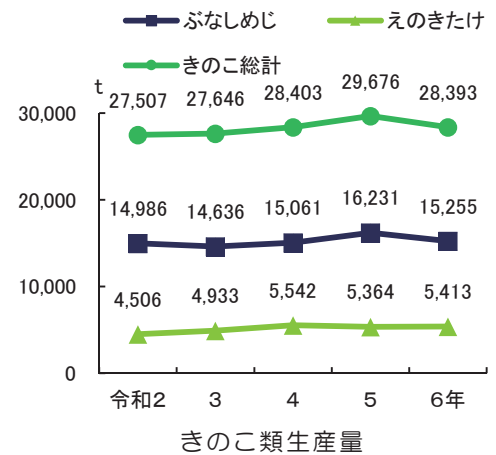


資料：林業振興課調べ

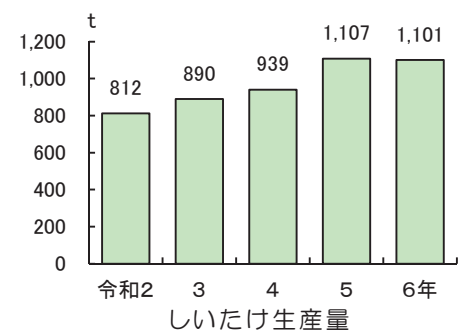
(きのこ類全体の生産量は4%減の28,393t)

- ・令和6年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ6%減の15,255t。えのきたけの生産量は、前年に比べ1%増の5,413t。きのこ類※全体では前年に比べ4%減の28,393t。
- ・しいたけの生産量は、前年に比べ1%減の1,101t。
- ・これは、主要な生産者において、価格維持のため出荷調整を行ったことが主な要因。

※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、きくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきれいたけ、王リンギを含む。



資料：林業振興課調べ



資料：林業振興課調べ

(4) 福岡県林業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国 ランク	備考
民有林の状況							
面積	千ha	193	17,321	—	—		県 : 令和7年4月1日現在(地域森林計画書) 全国 : 令和4年3月末現在(森林資源現況調査 : 林野庁)
材積	千m ³	62,231	4,255,846	—	—		
造林面積	ha	449	20,521	—	—		県 : 令和6年度実績(林業振興課調べ) 全国 : 令和4年度実績(2024年森林・林業統計要覧 : 林野庁)
間伐面積	ha	2,258	236,000	—	—		
主伐面積	ha	554	87,921	—	—		県 : 令和6年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国 : 令和4年度実績(2024年森林・林業統計要覧 : 林野庁)
林道延長(自動車道)	km	1,606	93,658	—	—		
林道密度	m/ha	8.3	5.4	—	—		県 : 令和7年3月末現在(農村森林整備課調べ) 全国 : 令和5年3月末現在(2024年森林・林業統計要覧 : 林野庁)
林業・木材産業の状況							
森林組合数	組合	9	607	—	—		県 : 令和6年3月末現在(団体指導課調べ) 全国 : 令和5年3月末現在(令和4年度森林組合統計 : 林野庁)
森林組合員数	人	28,121	1,465,762	—	—		県 : 令和6年3月末現在(団体指導課調べ) 全国 : 令和5年3月末現在(令和4年度森林組合統計 : 林野庁)
製材工場数	工場	81	3,547	—	—		令和7年7月末現在 (令和7年木材統計 : 農林水産省)
主な林産物生産量							
素材	千m ³	351	20,647	1.7	29		令和6年次実績(令和6年木材統計 : 農林水産省、林業振興課調べ) 県 : 令和6年次実績(林業振興課調べ) 全国 : 令和5年次実績(令和5年特用林産基礎資料 : 林野庁) ※しいたけは、生に換算した重量
しいたけ	t	1,101	76,088	1.5	21		
ぶなしめじ	t	15,255	117,924	13.8	3		
えのきたけ	t	5,413	117,543	4.6	4		
たけのこ	t	6,163	16,528	27.1	1		
木ろう	t	11	23	46.2	2		
林業産出額	千万円	1,529	55,600				令和5年次実績 (令和5年林業産出額 : 農林水産省)
木材生産	千万円	223	32,570	0.7	28		
薪炭生産	千万円	2	703	0.3	19		
栽培きのこ類	千万円	1,293	21,981	5.9	3		
林野副産物採取	千万円	10	345	2.9	8		
木材価格							
スギ(中丸太)	円/m ³	13,300	15,900	—	—		県 : 令和6年次県森連浮羽事業所実績値 (径18~22cm、4m) 全国 : 令和6年次実績 (農林水産統計 : 農林水産省)
ヒノキ(中丸太)	円/m ³	21,000	22,300	—	—		
緑化木							
生産本数	千本	3,390	56,444	7.6	3		県 : 令和6年度実績(林業振興課調べ)
生産額	億円	14	—	—	—		全国 : 平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査 : 林野庁)

注1 : 全国シェア・ランクは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2 : 「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3 : 「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

(5) 福岡県林業の全国的地位

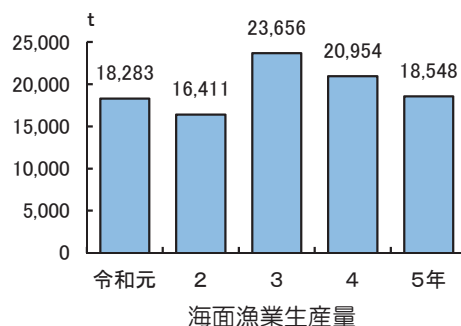
項目				区分	単位	全国シェア (%) 全国計	主 産 県				
							1	2	3	4	5
特 用 林 産 物	食 用	きのこ類	えのきたけ	t	4.6 117,543	長野 68,583	新潟 17,613	宮崎 6,938	福岡 5,364	大分 2,656	
			ひらたけ	t	30.1 4,630	新潟 1,842	福岡 1,393	長野 673	茨城 282	三重 87	
			ぶなしめじ	t	13.8 117,924	長野 47,705	新潟 21,047	福岡 16,231	香川 5,154	茨城 3,082	
			まいたけ	t	6.8 55,290	新潟 35,642	静岡 4,831	福岡 3,748	長野 2,615	北海道 2,471	
			エリンギ	t	4.8 35,793	長野 15,696	新潟 12,015	福岡 1,703	熊本 334	鳥取 319	
		その他	たけのこ	t	27.1 16,528	福岡 4,485	鹿児島 3,946	京都 2,093	熊本 1,578	宮崎 689	
	非 食 用	木ろう	t	46.2 23	愛媛 10.5	福岡 10.4	長崎 1.3	石川 0.2	和歌山 0.1		
				竹炭	t	34.6 526	福岡 182	鳥取 86	山口 13	鹿児島 6	愛知 4
	緑 化 木	生産本数				千本	7.6 56,444	愛知 17,446	愛媛 10,731	福岡 4,292	東京 4,241
				生産面積			a	20.1 388,832	福岡 78,148	熊本 65,326	愛知 33,104

資料：（特用林産物）令和5年林野庁特用林産基礎資料・令和5年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

3 水産業

(海面漁業生産量(沿岸漁業)は前年比11%減の18,548t)

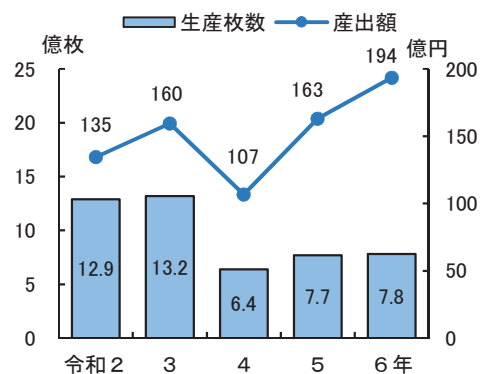
- 令和5年の本県における海面漁業生産量(沿岸漁業)は、前年比11%減の18,548t。
- 主な魚種別の生産量は、来遊が多かったサバ類が、前年に比べ1,453t増の2,298t、マアジが前年に比べ121t増の761t、マダイが前年に比べ69t増の1,519t、ブリ類が90t増の2,784t。
- 主な漁業種類別の生産量は、さし網4,332t、中小型まき網5,849t、船びき網2,460t、小型底びき網962t。



資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

(ノリ養殖生産量は平年比27%減の7.8億枚)

- ノリの生産枚数は平年※に比べ27%減の7.8億枚。
- 有明海では、秋芽網の摘採が11月下旬より順調に行われていたが、12月以降の少雨と植物プランクトンの増殖により栄養塩が減少。
- このような中、有明海漁連では、県の指導のもと、従来、全漁協一斉に行ってきた秋芽網から冷凍網への切り替えを、漁協毎のタイミングで行う手法に変更し、この期間の生産枚数を確保。
- 2月以降も低栄養状態の継続と低水温によりノリの生長に遅れがみられ、生産が低調。
- 平均単価は、平年に比べ10.82円高の24.8円/枚で、産出額は平年に比べ29%増の193.6億円。



ノリ養殖生産枚数・額(養殖年)

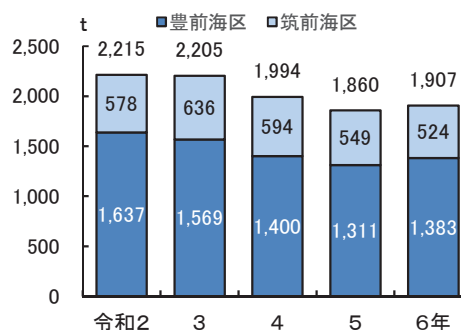
資料：水産振興課調べ

※生産枚数の平年値：令和元年～5年の5か年平均。

(カキ養殖生産量は平年並みの1,907t)

- カキの養殖生産量は平年※並みの1,907t。
- 県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理を徹底した結果、平年並みの生産を維持。

※生産量の平年値：令和元年～令和5年の5か年平均。

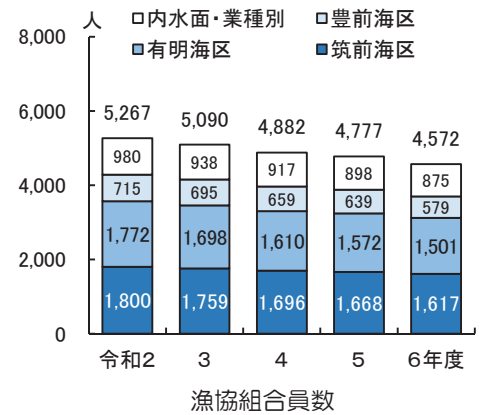


カキ養殖生産量(養殖年)

資料：水産振興課調べ

（漁業協同組合員数は4,572人）

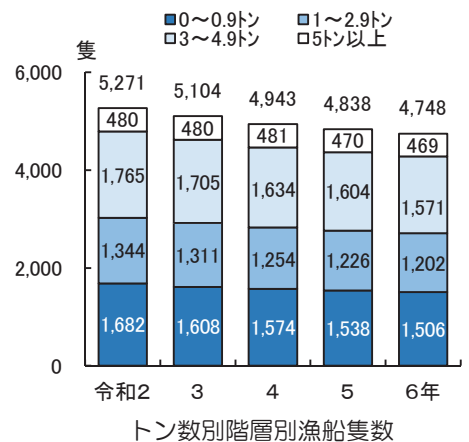
- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ4%減の4,572人。
- ・筑前海区が1,617人、有明海区が1,501人、豊前海区は579人、内水面・業種別は875人。



資料：漁業管理課調べ
注：令和6年度は速報値

（漁船隻数は4,748隻）

- ・漁船隻数は、前年に比べ2%減の4,748隻。
- ・小規模漁業を営む5トン未満の船4,279隻で全体の90%を占める。



資料：漁業管理課調べ

(1) 筑前海区

(サバ類、ブリは好調、マアジ、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和6年度の漁船漁業の漁獲量は、サバ類、ブリは平年を上回り好調、マアジは平年並み。
- ・カキ養殖及び真珠養殖は、前年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ117万尾、アワビ44万尾、アカウニ24万尾、トラフグ38万尾の種苗放流を実施。



水揚げされたサバ

(2) 有明海区

(ノリ生産枚数は平年比7割で生産額は3割増、アサリ漁獲量は1,000 t 超えの見込み)

- ・ノリ養殖は、12月上旬から漁期終了時まで植物プランクトンによる色落ちが発生。その結果、令和6年度の生産枚数は平年に比べ27%減の7.8億枚であったが、平均単価は25円/枚と過去最高値で、生産額は192億円と30%増。
- ・アサリ資源を増やす取組として、アサリ稚貝の移植放流や保護区の設定、稚貝を効率的に集めるための砂利袋の設置等を継続して実施。令和6年の漁獲量は5年ぶりに1,000 t 超えの見込み。
- ・クルマエビ99万尾、ガザミ種苗259万尾の種苗放流を実施。



市場に出荷されたアサリ

トピック

○ 生残向上を目指した^{ふかば}深場漁場へのアサリ移植放流

- ・近年、夏季の豪雨による有明海の低塩分化が頻発し、アサリ等二枚貝のへい死が発生。
- ・この対策として、河口域を中心に発生したアサリ稚貝を、低塩分化しにくい干潟漁場へ移植してきたが、夏季の高水温によりアサリがへい死する事例が発生。
- ・このため、令和6年度は、移植先に猛暑の影響を受けにくい深場の漁場を加え、その漁場に稚貝の約6割に当たる71.7 t を移植放流。



アサリ稚貝の移植放流



深場漁場でのアサリの漁獲

(3) 豊前海区

(コウイカやヨシエビ、シバエビの漁獲が好調)

- ・令和6年度の漁船漁業の漁獲は、コウイカやヨシエビ、シバエビが好調。マゴチは平年並み。
- ・カキ養殖は、秋季に成長の遅れがみられたが、その後、成長、身入りとも回復し、順調に生産。
- ・水産資源の維持に向け、クルマエビ83万尾、ヨシエビ215万尾、ガザミ203万尾の種苗放流を実施。また、卵を持ったガザミの雌を保護するため、甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。



漁獲好調だったコウイカ

トピック

○ 豊前海におけるアカモク増殖技術を開発

- ・豊前海では、アカモクの生息に適した浅場の岩礁域が少ないため、アカモク資源を増やすには、投石による漁場づくりが必要。
- ・そこで、投石と母藻投入によるアカモク藻場の造成技術を開発。
- ・アカモクは、太陽光が海底まで差し込む比較的明るい2m程度の水深であれば、投石と母藻投入により、藻場となることを実証。
- ・また、潮通しのよい漁港外の方が、漁港内よりも生産性が高いことを確認。
- ・令和6年度は、これらの成果をとりまとめ、漁業者に普及。

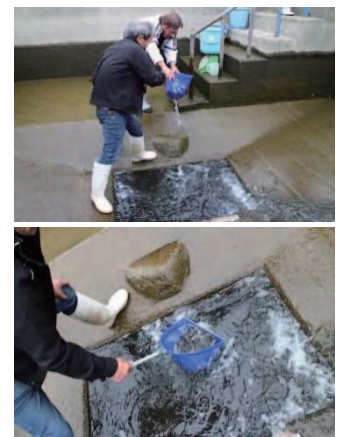


投石漁場に繁茂するアカモク

(4) 内水面

(アユの漁獲は平年並み)

- ・令和6年度のアユの漁獲は平年並み。
- ・アユは、内水面漁連で生産した種苗等を県内8河川に38万尾放流。
- ・エツは、下筑後川漁協で生産した種苗を筑後川に20万尾放流。
- ・コイヘルペスウイルス病（KHV）は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が防疫対策等の指導を行い、イギリス、ベトナム、アメリカをはじめとする16か国に輸出。



矢部川に遡上したアユの汲上作業
(瀬高堰で採捕後、上流へ放流)

(5) 福岡県水産業の主要指標

区分 項目	単位	県合計	海面漁業				内水面	全 国 ランク	備 考
			計	筑前海	有明海	豊前海			
経営体数	経営体	2,043	2,008	1,108 ^{*1}	644	256	35	13	令和5年値 (2023年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
就業者数	人	—	3,913	1,648 ^{*2}	1,866	399	—	11	令和5年値 (2023年漁業センサス) *2:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
うち男性	人	—	3,304	1,588	1,402	314	—	11	
うち女性	人	—	609	60	464	85	—	7	
水域面積	km ²	—	—	約7,000	171	930	河川 延長 2,205km	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地 間、島間の中間線を結 ぶ線に囲まれた本県漁 船が操業する水域の面 積 (有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面) ・県土整備部河川管理課資 料 ・農林水産部農村森林整備 課資料
海岸線 長さ	km	—	—	420	47	109	人工湖 31か所	—	
最大水深	m	—	—	120	15	15	溜池 4,738か所	—	
共同漁業権 免許件数	件	75	62	52	4	6	13	—	令和7年3月31日現在 (漁業管理課調べ、水産振 興課調べ)
区画漁業権 免許件数	件	171	149	58	59	32	22	—	
漁船数	隻	4,748	4,589	2,003 ^{*3}	2,074	512	159	—	令和6年12月31日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
漁協数	漁協	39	30	7	15	8	9 ^{*4}	—	令和7年3月31日現在 (漁業管理課調べ) *4:内水面には業種別 組合の福岡県養鰻を 含む
漁組合員数	人	4,572	3,697	1,617	1,501	579	875	—	
漁生産量	t	45,234	45,000	45,000			234	22	令和6年値 (農林水産省「漁業・養殖 業生産統計(概数)」、漁業 管理課調べ、水産振興課 調べ)
漁船漁業 生産量	t	16,060	16,000	16,000			60	28	
養殖業 生産量	t	29,174	29,000	29,000			174	10	
漁産出額	百万円	32,835	32,547	11,261	19,114	2,172	288	16	令和5年値 (農林水産省「漁業産出 額」、漁業管理課調べ、水 産振興課調べ)
漁船漁業 産出額	百万円	12,545	12,440	10,372	708	1,360	105	23	
養殖業 産出額	百万円	20,290	20,107	889	18,406	812	183	14	

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：原則として単位未満で四捨五入しているため合計と内数の計は必ずしも一致しない。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

区分 項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	10.3% 14,706	長崎 1,848	兵庫 1,820	福岡 1,519	愛媛 1,242	山口 657
チダイ	t	13.5% 1,706	長崎 349	福岡 231	宮城 224	新潟 80	石川 75
キダイ	t	5.9% 4,319	長崎 1,851	島根 815	山口 646	福岡 253	鳥取 160
イサキ	t	6.9% 3,194	長崎 1,123	千葉 238	島根 221	福岡 219	三重 163
サワラ類	t	5.9% 10,730	福井 1,429	京都 1,266	石川 1,243	島根 693	福岡 636
アマダイ類	t	7.1% 1,156	山口 243	長崎 179	島根 135	福岡 82	新潟 71
ガザミ類	t	9.7% 1,486	愛知 383	宮城 329	福岡 144	長崎 110	熊本 91
タコ類	t	3.2% 22,848	北海道 14,074	岩手 1,394	宮城 1,378	青森 759	福岡 726
ナマコ類	t	5.2% 5,777	北海道 1,690	青森 716	山口 578	宮城 337	福岡 303
ウニ類	t	1.9% 7,204	北海道 4,091	岩手 1,289	宮城 655	青森 330	福岡 136
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	13.1% 5,950	兵庫 1,898	佐賀 964	熊本 841	福岡 780	宮城 343
	産出額 (億円)	13.5% 1,436	兵庫 434	佐賀 233	熊本 228	福岡 194	宮城 85

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、漁業管理課調べ、水産振興課調べ

注1：ノリは令和6年養殖年（令和6年10月～7年4月）を、その他は令和5年の数値を表示。